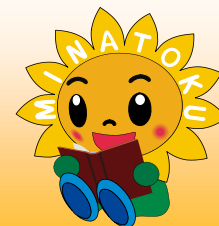


3 港区における 中学校の現状と課題及び再編案について



港区内の小・中学校の位置図

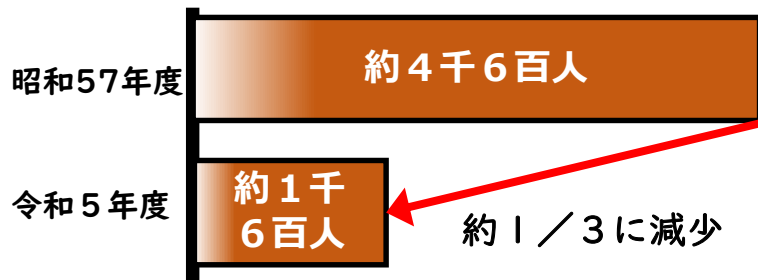


港区における中学校の現状

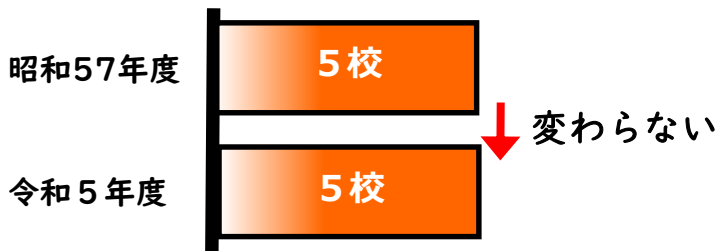


1. 港区全体の状況

港区内の大阪市立中学校の生徒数

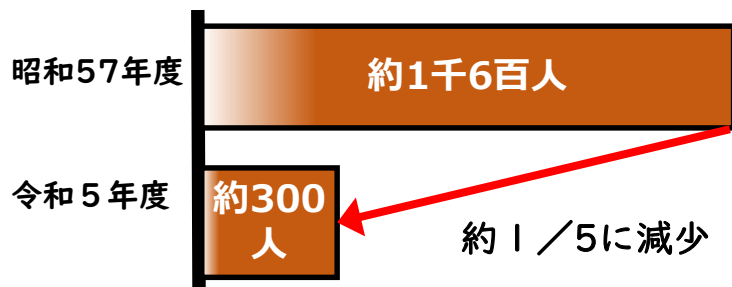


港区内の大阪市立中学校の学校数

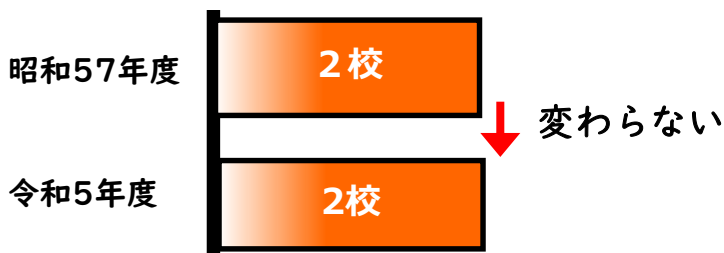


2. 港区・西部地域（港中・築港中）の状況

港区・西部地域の大阪市立中学校の生徒数



港区・西部地域の大阪市立中学校の学校数



- 西部地域は、港区全体よりも生徒数が減少しており、中学校の小規模化が進行しています。

港区内の中学校の学級数および生徒数



◆学級数 (1学級 = 40人)

<令和5年5月1日現在>

	市岡中	港南中	市岡東中	港中	築港中
3年生	5	4	3	2	1
2年生	5	4	3	2	1
1年生	4	4	3	3	1
計	14	12	9	7	3

築港中では、

- 全学年で単学級。
- 生徒数の減少とともに、男女比にも偏りが生じている。
⇒ 集団活動等に課題。

◆生徒数

	市岡中			港南中			市岡東中			港中			築港中		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
3年生	193	99	94	141	64	77	110	46	64	73	42	31	22	14	8
2年生	193	99	94	153	72	81	110	55	55	80	39	41	15	11	4
1年生	154	73	81	139	67	72	117	75	42	89	47	42	21	14	7
計	540	271	269	433	203	230	337	176	161	242	128	114	58	39	19

● 港区内の中学校では、最も多い市岡中に対し、築港中は、約10分の1となっている。

大阪市立中学校における小規模の順 (令和4年5月現在)



(普通学級 > 生徒数の少ない順)

※夜間中学および郊外校(大阪市外)を除く。

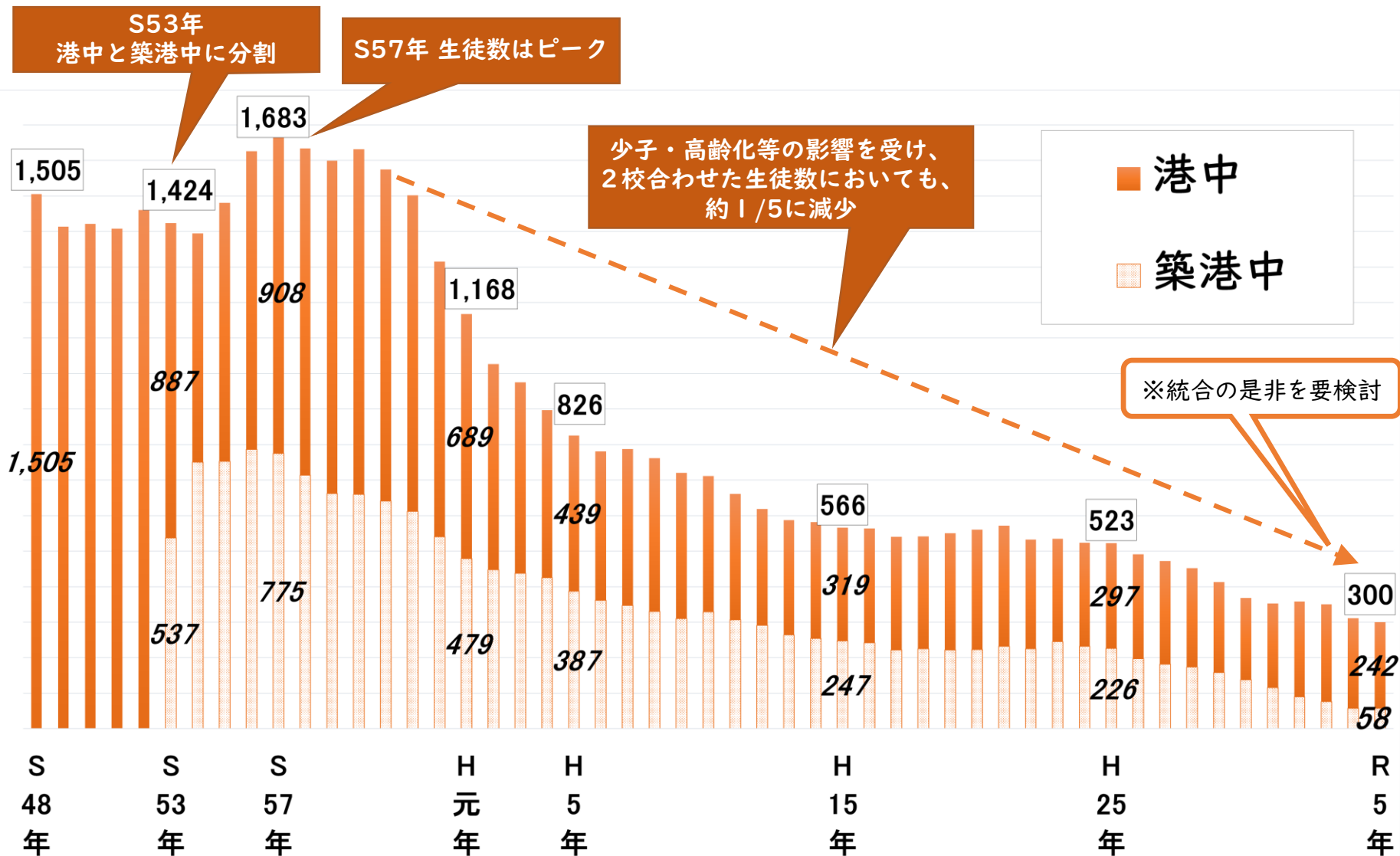
小規模の順	区分	学校名	普通学級				生徒数			
			1年	2年	3年	合計	合計	1年	2年	3年
1	港	築港	1	1	1	3	58	15	23	20
2	東住吉	矢田南【やたなか小中一貫】	1	1	1	3	88	18	32	38
3	東住吉	矢田西	1	1	1	3	104	39	25	40
4	西成	鶴見橋	1	1	1	3	114	40	41	33
5	西成	梅南	1	2	2	5	143	42	46	55
6	中央	南	1	2	2	5	158	43	61	54
7	平野	長吉六反	1	2	2	5	159	44	64	51
8	住之江	南港南【咲洲みなみ小中一貫】	1	2	2	5	195	44	75	76
9~23	生野	新巽 外14校	2	2	2	6	209 など	59	70	80
24~27	港	港 外3校	2	2	3	7	253 など	79	74	100
28~34	阿倍野	松虫 外6校	3	2	3	8	276 など	97	84	95
35~56	港	市岡東 外21校	3	3	3	9	307 など	111	107	89
57~68	東成	東陽 外11校	4	3	4	10~11	391 など	129	122	140
69~82	港	港南 外13校	4	4	4	12	425 など	150	140	135
83~94	淀川	宮原 外11校	4	4	5	13~14	503 など	155	156	192
95~105	港	市岡 外10校	5	5	5	15	582 など	192	194	196
106~111	淀川	新北野 外5校	5	5	6	16~17	631 など	194	210	227
112~115	東淀川	新東淀 外3校	6	6	6	18	674 など	218	229	227
116~125	西	堀江 外9校	7	6	6	19~	771 など	274	250	247

築港中は、通常の中学校で
最小規模

【小中一貫校の前例】

➤ 小規模校が解消されていない。

港中学校・築港中学校の生徒数推移 (S48年～R5年)



【参考】小中学校の統合案（筋原前区長の小中一貫校プラン）



【案】

築港小学校と築港中学校を
小中一貫の特色ある学校とし、
全市から児童生徒を募集する案。

◎教育委員会との検討による見解

- ⇒ 全市から児童生徒が集まる見込みがない。
- ⇒ 単学級の解消に向けての直接的な効果が得られるものでない。

⇒ 検討の結果、実現性が乏しい。

中学校の教育環境整備の必要性



- ◎学校選択制を築港中学校区のみ停止しても解消しない
⇒港中学校が小規模化、または両校とも小規模化の可能性
- ◎学級数の減少に伴い、各教科の担当教員数が減少
⇒教員同士による指導方法の高め合い、授業の充実に課題
- ◎他校でできている活動ができないケースがある
⇒部活動や行事の縮小、予算不足による宿泊行事の課題



小規模校の良さである「一人ひとりに目が届く」環境を、学校再編による教職員の加配で維持しながら集団活動を可能とし、「こどもも大人も学び合う」学校規模に再編整備する

中学校の統合案（港中⇔築港中）



【案1】港中を使用

- 現状の人数、選択制による希望が多い

【案2】築港中を使用

- 現状の人数、選択制による希望が少ない

※留意点:

使用する学校は、通学距離、キャパシティ、校舎の築年数等を総合的に考えて判断。

最短で「令和8年4月」の開校が可能

中学校の統合案（校舎の比較）



（面積）

	港中学校	築港中学校
校地	17,130㎡	15,994㎡
うち運動場	9,588㎡	10,491㎡
屋体棟（体育館）	884㎡	723㎡

（建築年度）

港中学校		築港中学校	
①管理室棟	H9	①管理室棟・特別・普通 教室棟	S53
②特別教室棟	S55	②特別教室棟	S53
③特別・普通教室棟	H10	③屋体棟	S53
④特別教室棟	H10	④武道場	H3
⑤屋体棟	H4	⑤プール	H30
⑥武道場	S61		
⑦プール	R6完成予定		



◎ 面積、築年数、通学で運河を渡る生徒数を比較すると、「港中学校」を使用する案が望ましいと考えられる。

中学校の統合案（生徒数・学級数の見込み）



<港中・築港中の統合シミュレーション>

	令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和11年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
3年生	94	3	98	3	83	3	86	3
2年生	98	3	83	3	86	3	79	2
1年生	83	3	86	3	79	2	91	3
合計	275	9	267	9	248	8	256	8

※本推計は、暫定値（令和5年5月現在未定稿）

再編後の学校の魅力化案（中学校）



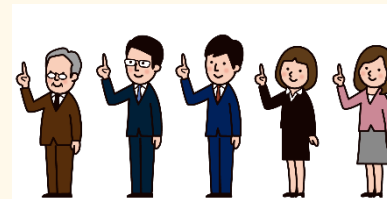
統合後の学校では・・・
再編インセンティブの活用



築港中学校



港中学校



教員やスクールカウンセラーの加配
（※必須）

ABC

たとえば、英語・外国語の授業の充実

たとえば、部活動・スポーツ推進・強化校



たとえば、ICT教育の推進・強化校



たとえば、キャリア教育の推進



たとえば、校庭の芝生化
などの環境整備

（※注）建物等のイラストは、あくまでイメージであり、実際の景観とは異なります。